The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	＜紹介＞徳永光展著『城山三郎『素直な戦士たち』論』
Author(s)	池田, 弘明
Citation	語文. 2012, 99, p. 40-40
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/70897
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

徳永光展著『城山三郎『素直な戦士たち』論』

池田弘明

『夏目漱石『心』論』などで知られる徳永光展氏が、『城山三郎『素直な戦士たち』論』を刊行された。

本書で扱われている城山三郎『素直な戦士たち』は、松沢秋雄と千枝との見合いから語りおこされる。「千枝は長男にエリート教育を施し、東京大学へ入学させることを無邪気に夢見る女性であった。その遠大な子育て計画がいかなる経過を辿り、どのような結末を迎えるに至ったかを物語は描いている。」（第一章　本研究の概要　第一節　問題の所在）

本書は、全十一章からなる。「第一章　本研究の概要」では、作品の略述、作品内時間の推移の検証がなされている。加えて、各章の概要が述べられている。「第二章　秋雄・千枝の関係と英一郎の幼児期―計画育成の実相―」では、見合いから英一郎の小学校入試挑戦までの、秋雄と千枝の関係が中心に論じられる。さらに、物語の終焉部で描かれる英一郎の「破局」の萌芽は、幼児期の英一郎に早くも見出せることが指摘される。「第三章　行き詰る英才教育―エリート集団における英一郎―」では、公立小学校に入学した後の英一郎に焦点を当てることによって、松沢家の子育てに欠落していた要素を浮き彫りにする。「第四章　見捨てられる次男―健次の立場―」では、英一郎とは対照的に放任される健次に焦点があてられる。健次が、両親の関心の的である英一郎に対して抱く感情の推移について論じられている。「第五章　封じられる秋雄の声―夫婦間衝突回避の状況―」並びに「第六章　山積する疑問―秋雄の視点―」では、千枝の夢を共に追うようになった秋雄の視点から作品世界が分析される。物語が進行するにしたがって生じる、妻・千枝と夫・秋雄間のコミュニケーションの変化が明確にされている。「第七章　女性という存在とエリート養成―千枝の視点―」では、千枝の視点から作品が分析される。千枝の女性性や母性は作品中、どのような形で機能し、また機能しないのかが、考察される。「第八章　宗教にすがる様相」では、松沢家の宗教との関わりについて論じられる。「第九章　批判する他者の存在―係長・尾石の眼差し―」では、松沢家の育児方針に批判的である尾石の視点から物語世界が捉えられる。その結果、松沢家の英才教育計画の実態が明らかにされている。「第十章　「その日」以降の松沢家―敗れた夢―」では、作品の後日譚が推測される。「第十一章　英才教育が「本当の自由人」を作るという発想」では、千枝の育児方針の功罪が著者によって、総合的に評価される。加えて人材養成の在り方に関する論究がなされている。本書は、以上十一章によって構成されている。また、本書の末尾には、城山三郎『素直な戦士たち』のあらすじが付されている。日英両語で書かれている。

（双文社出版、二〇一二年四月、二八〇頁、四，〇〇〇円）

（いけだ・ひろあき　本学大学院博士前期課程）